

# 小学校の学年経営における組織的協働的なマネジメントに関する実践的研究

19071 高橋 正範

キーワード：学年主任者会 戦略マップ 学年会運営プログラム セルフチェック表

## 概要

本研究は、ミドルリーダーである学年主任が中心となって学校の組織的対応を支えていく仕組みと、学年段階での協働的なマネジメントの確立による学年経営の充実を目指している。学年主任と学級担任の兼務が多い小学校では、学年・学級経営は担当教員の裁量性に委ねられることが多く、経験や専門性による個性的な教育活動が展開されがちだった。しかし、近年の複雑化多様化する社会の大きな変化や、新しい時代に求められる資質・能力の育成に対し、学校の組織的対応は一層求められ、教職員の協働性を高めた教育活動は不可欠である。そこで、学校経営の中核となる学年主任者層が学校運営に積極的に関わる学年主任者会と、児童と学年担任の双方へアプローチしながら互いの強みを生かした協働的学年経営の在り方について、実践・検証を行った。これにより、ミドル層のリーダーシップを発揮させながら学校の組織力を向上させ、学年目標（ビジョン）の共有を基に学年担任の自立性や専門性を高めたり、協働性を醸成したりしながら学年・学級の課題を共に解決ことを明らかにした。

## I 研究の目的・ねらい

### 1 研究の背景

新学習指導要領（総則編）では、小中学校、高等学校において「学習活動や学校生活の基盤となる学級経営の充実」が位置付けられ、その重要性が高まっている。しかし、教員養成の段階から免許法で「学年経営」「学級経営」という科目は定義されておらず、教員研修においても十分に実施されているとは言えない状況にある。また、多様化する児童生徒の個と集団への指導、保護者への対応、新学習指導要領に沿った授業改善など多忙化する学校現場において、教員の同僚性や協働性の構築は難しくなっている。さらに、ベテラン層教員の大量退職により若手教員が急激に増加し、教員の年齢構成が大きく変わる中で教育技術の伝承もされにくくなっている。

特に小学校においては、依然として「学級王国」かつ個業性の文化が根強く残り、担任裁量による自由度が大きい反面、担任一人にかかる負担は年々増している。このことは、学年経営においても同様で、学年主任が学級担任を兼務する実情から、学年経営上のトラブルに対して迅速に対応したり、学年全体を俯瞰して学年メンバーへの指導助言を行ったりすることも難しい。また、学年主任同士による情報共有の場が少なく、学校としての共通理解も図りにくい。一方、近年では学年主任者層の若年化による人材育成も課題となっている。よって学年・学級経営上の様々な課題に対して、学年担任と関係する職員等が協働し「チーム」となって対応することが不可欠である。そのためには、学年主任のリーダーシップの基、学年担任の能力を引き出したり、関係職員と協働したりして互いの強みを生かしながら、学校教育目標を達成するために効果的な手立てを講じる戦略的な学年経営が求められる。

そこで、主に各教員の経験則で行われてきた「学年・学級経営」を先行研究や様々な実践等から分析し、その内容や成果と課題を整理するとともに、組織マネジメントの視点（個人の特性を組織の力に変え、協働的かつ効果的に目標達成を実現する）を取り入れ、学級経営力向上にもつながる学年経営の在り方を追究したいと考え、本テーマを設定した。

### 2 研究の目的

学校教育目標具現化に向け、組織マネジメントの視点を取り入れた学年経営を提案する。その提案に基づいた戦略的実践を通して、学年主任を中心とした組織的協働的な学年・学級経営の在り方を探る。

### 3 研究の方法

#### (1) 調査研究

- ① 学年・学級経営に関する先行研究や文献による調査研究
- ② 学年・学級経営に関する実態調査（所属校：6月、12月）

- ア 学年経営アンケート（全教員）
- イ 学年経営セルフチェック（学年主任のみ）・学級経営セルフチェック（全学級担任）

(2) 組織的協働的な学年経営の立案

II 研究の結果

(1) 調査研究

①学年・学級経営に関する先行研究や文献による調査研究

本研究の始めは、学級経営に重点を置いていた。そのため、調査の前に自身のこれまでの学級経営に関わる仕事内容の分類整理を次のように行った。

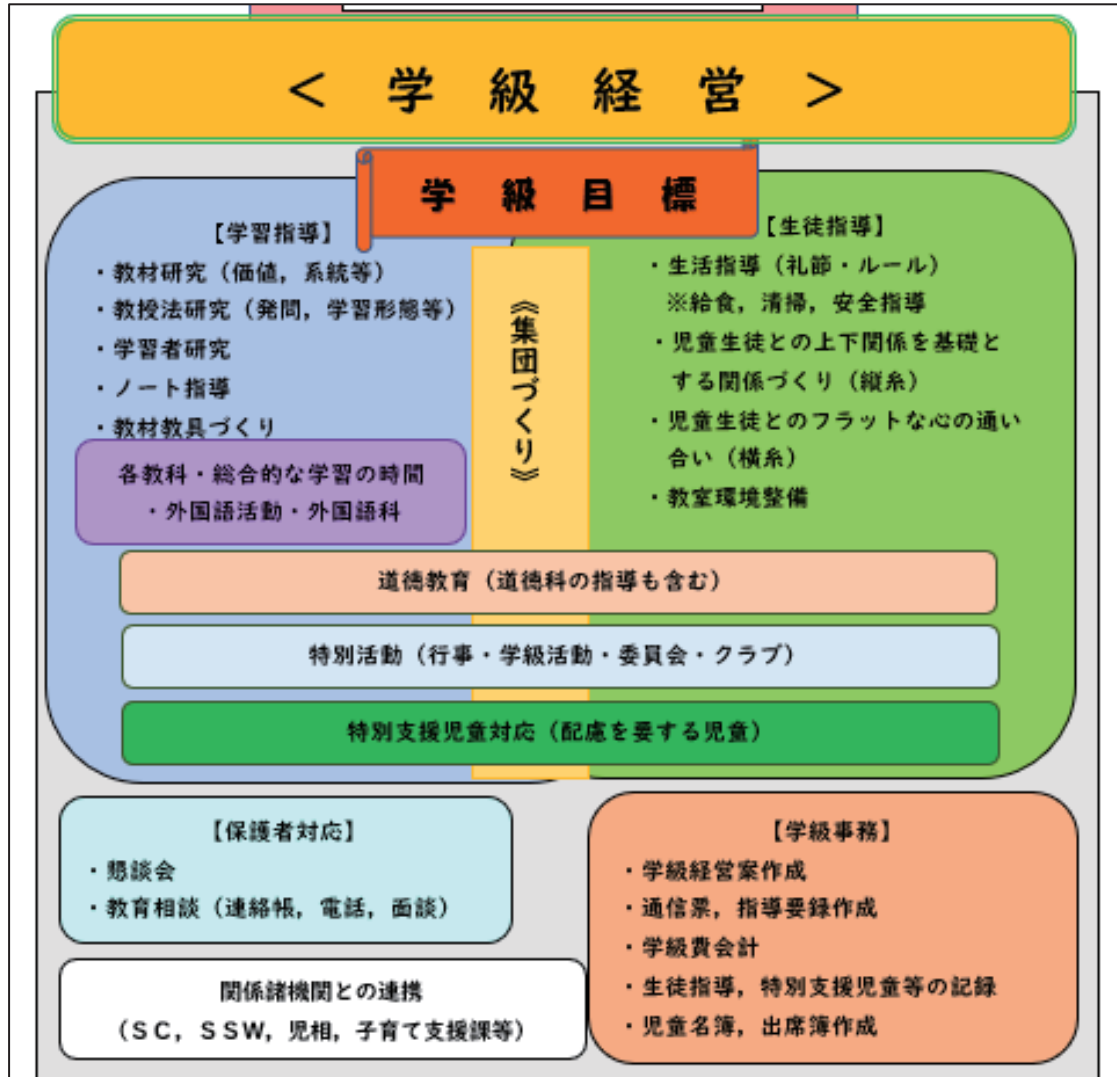


図1 学級経営上の仕事分類

図1のように学級経営に関わる仕事内容は膨大であり、また小学校は学年が上がるほど担当教科も増えるため、学級担任一人への負担が大きくなっている。また、担任の裁量に圧倒的に委ねられる「学級王国」文化によって、学習指導重視型（図2）や人間関係づくり重視型（図3）に偏った学級経営観を見直し、学年（あるいは学年部等）の教員が協働で取り組む学級経営へと転換していく必要があると考えた。

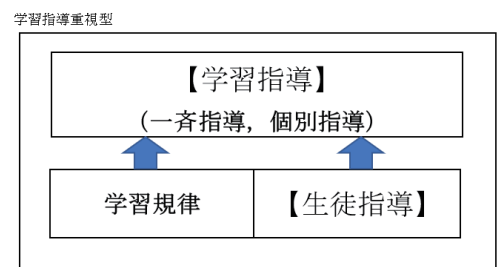


図2 学習指導重視型

白松（2017）は、学習指導重視型のような「学級における学習のための秩序をつくること（条件整備）をねらいとした学級経営を『狭義の学級経営』と捉え、人間関係づくり重視型のような「児童生徒の立場を重視し、先生と児童生徒の協働の立場を重視してきた学級経営を『広義の学級経営』と定義している。さらに、これら2つの型に生徒指導との関係を踏まえ、学級経営を「学級のあたたかさを創る『必然的領域』」「できることを『計画的領域』」「ともに学級を創る偶発的領域」の3つの領域に整理し、理論付けている。

人間関係づくり重視型

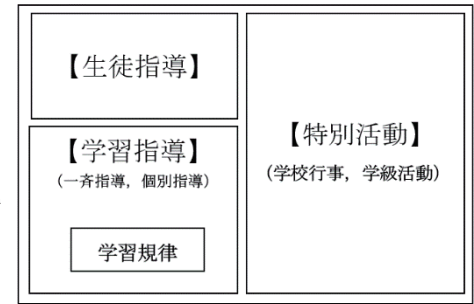


図3 人間関係づくり重視型

研究を進める中で、一人の担任による学級経営力の向上をねらうのではなく、学校全体で取り組む方が効果は大きく、可能性も広がると考えた。そこで学年主任を中心に、学年経営の充実を通して多くの学級経営力を高めていくこととした（図4）。

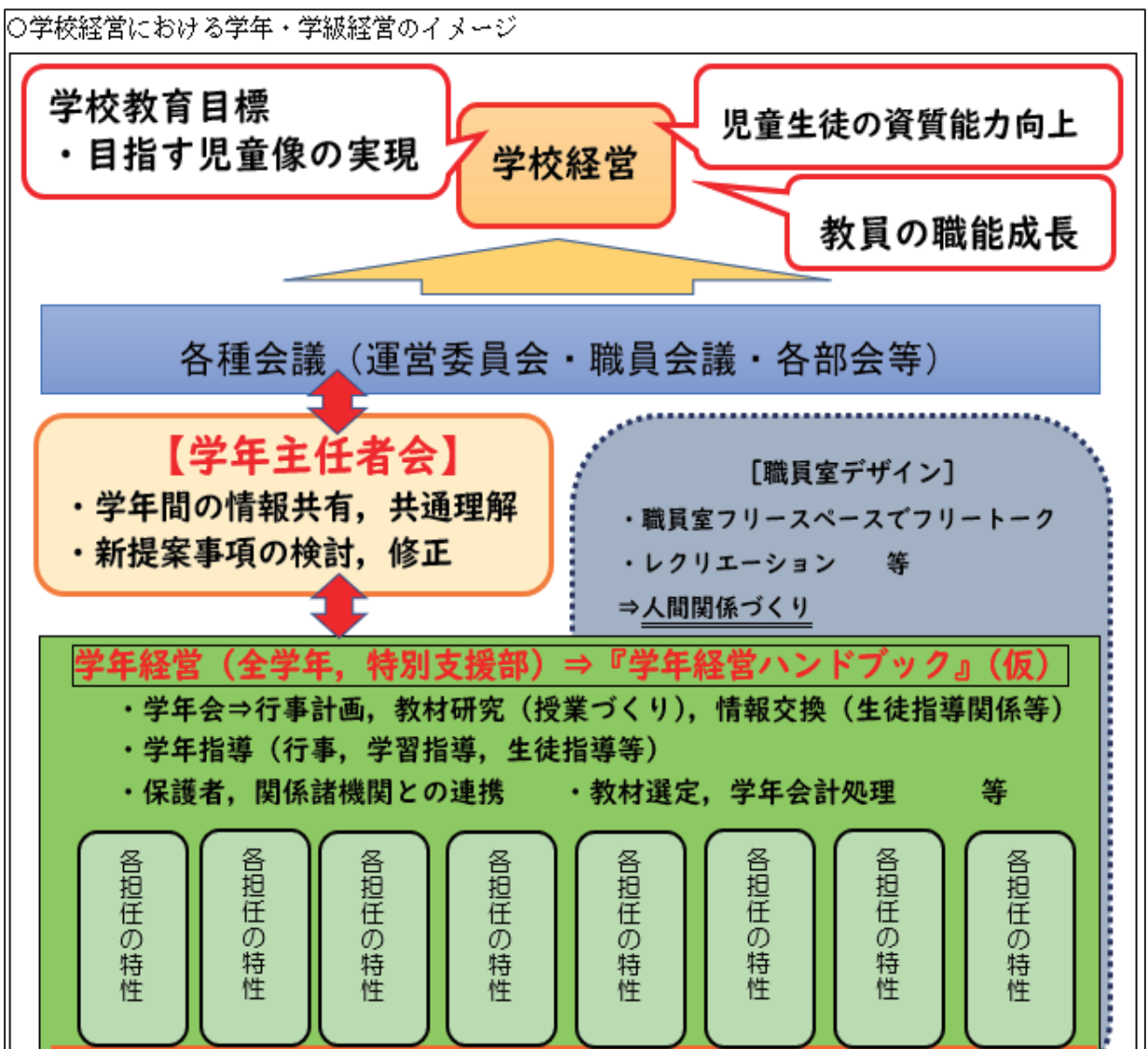


図4 学校経営における学年・学級イメージ図

奥田（2012 岐阜大）『小学校における学年運営の実態』（調査対象：127校 452人の学年主任）の研究では、次のことが分かった。

<学年会で重視する内容>

- ・「学年行事・活動の計画，打合せ」
- ・「学級経営実態に関する情報共有」

<学年会であまり重視されない内容>

- ・「担任の資質・能力の向上に関わる内容」

<学年主任のリーダー行動について>

- ・「学年の行事や活動の立案」の実施度は高い。
- ・「学級経営状況の実態把握」「学校経営スタッフの一員として学校運営へ参加」「学年の教員に対する指導，助言，指示」の実施度が低く，経営組織としての役割が十分認識されていないことが分かった。

②学年・学級経営に関する実態調査（所属校：6月，12月）

ア 学年経営アンケート（全教員） ※ 結果の詳細は，リサーチペーパーを参照

6月と12月の結果を比較して次のことが分かった。

- ◇どの学年も週に1回の定期開催と臨時開催（短時間）が定着してきた。ただし，学校として学年会議の開催日を設定し，確実に実施することが望ましい。
- ◇学年会議の内容で効果的なものとして「学習指導・教材研究」「児童の情報共有（互いに悩みを打ち明ける）」「学年行事の計画立案（役割分担も含め）」の3点が挙げられた。また，これらの効果を上げる前提として，学年担任間の日常的なコミュニケーションの蓄積による親和的な人間関係の構築が不可欠である。
- ◇学年主任が意図的に学年教員の興味や特性を考慮して行事や教科担当を分担したり，学年教員のよさを認めたり，意見を受け止めたりしながら仕事を進めるなど，組織マネジメントの視点を取り入れた学年経営を実践している。

イ 学年経営セルフチェック（学年主任のみ）・学級経営セルフチェック（全学級担任）

校内での「学級経営ミニ座談会」（任意参加）の開催を受け，定期的な学年学級経営の振り返りとして「学年経営チェック表」（図5）「学級経営チェックリスト表」（図6）を作成した。毎月の振り返り任意とし，長期休み前の振り返りは全担任に実施して変容を調査した。

学年経営セルフチェック表		第( )回	自己評価		
【 】学年主任( )		実施日：R 年 月 日	(4段階)	平均(6月)	平均(12月)
学年メンバーとの関係づくり	① 自分の方からメンバーに声を掛け，コミュニケーションをとっている。	4・3・2・1	①	3.2	3.7
	② メンバーの特性（教育観や得意教科等）や興味などを理解している。	4・3・2・1	②	3.0	3.2
	③ メンバーの取組を認め励ましたり，学年外にも発信したりしている。	4・3・2・1	③	2.5	3.0
	④ メンバー間あるいは他の職員との関わりを促す働き掛けをしている。	4・3・2・1	④	2.7	3.0
	⑤ メンバーの悩みを受容し，支援している。	4・3・2・1	⑤	3.0	3.2
	⑥ 学校教育目標，学年目標との関わりを意識して指導や助言をしている。	4・3・2・1	⑥	2.5	3.0
	⑦ 自ら手本を示し，リーダーシップを発揮している。	4・3・2・1	⑦	2.5	2.7
学年経営のマネジメント	① 1年間あるいは学期の見通しをもち，計画的に学年経営を行っている。（学校外部の関係機関との渉外も含む）	4・3・2・1	①	2.3	2.7
	② 学年児童や保護者，地域の実態を把握している。	4・3・2・1	②	2.7	3.2
	③ 学校教育目標，経営方針を念頭に学年経営に取り組んでいる。	4・3・2・1	③	3.0	3.2
	④ 学年目標（ビジョン）をメンバーと共有している。	4・3・2・1	④	2.8	3.2
	⑤ メンバーの特性などに応じた役割分担を行っている。	4・3・2・1	⑤	2.8	3.5
	⑥ 管理職への「報・連・相」を確実にし，関係職員と連携しながら学年経営に取り組んでいる。	4・3・2・1	⑥	3.5	4.0
	⑦ 学年PTA役員と連携している。（保護者の理解を得ている）	4・3・2・1	⑦	2.0	2.3
	⑧ 学年会議などを効率的に行っている。（資料作成・働き方改革等）	4・3・2・1	⑧	2.8	3.0
	⑨ メンバーのクラスにも注意を払い，学年全体を俯瞰してみている。	4・3・2・1	⑨	3.2	3.7
	⑩ 他学年の主任と積極的にコミュニケーションを図り，学校全体の活性化に貢献している。（学年主任者会等）	4・3・2・1	⑩	2.8	3.2
	⑪ 学校・学年行事，協働での授業づくりなどにおいて継続的に振り返りを行い，改善を加えて取り組むサイクルを習慣化している。（PDCAサイクル）	4・3・2・1	⑪	2.5	2.7
	⑫ 次年度の学年主任への引継ぎを意識した取組（記録，準備）を行っている。	4・3・2・1	⑫	2.7	2.8

☆ 4段階評価⇒ 4：該当する 3：だいたい該当する 2：あまり該当しない 1：該当しない

図5 学年経営セルフチェック表

学年経営については、すべての項目で6月より改善が見られた。特に、「学年メンバーとの人間関係づくり」では、学年主任自らメンバーに声を掛けたり、メンバーのよさを認め励ましたりしていくことを意識して取り組んできたことが分かった。また、「学年経営のマネジメン」では、特に「メンバーの特性を生かした役割分担」「管理職との報告・連絡・相談」「他学年の主任との情報共有による学校活性化への貢献」について実践できたことが分かった。一方、課題として学年主任者会や学年会議の時間の確保や効率的な運営が依然として残った。

学級経営については、ほとんどの項目で改善が見られた(図6)。特に「個と集団」の結果から、本校の先生方が子ども一人一人のよさを見取り、それを学年や学級の中で意図的計画的に発揮させて個と集団の双方を伸ばしていることが分かった。一方「担任と子ども」の項目について、多忙な中で子どもと十分に触れ合う時間が確保できなかつたり、さまざまな子どもへの指導で毅然とした態度を取つたりしたことを謙虚にふり返つたためではないかと考える。

学級経営セルフチェック表		第( )回	自己評価				
年 組担任 ( )		実施日: R 年 月 日	(4段階)				
担任と子どもの関係づくり	① 休み時間や放課後、清掃などに、できるだけ多くの子どもと触れ合っている。(子供の話を聞いたり、一緒に遊んだりするなど)。	4・3・2・1	①	35%	53%	12%	0%
	② 朝の早い段階で言動や顔色等の様子に注目し、子どもの状態を読み取っている。(遅刻・欠席の場合には、家庭と連絡を取り、子どもの状況を把握している。)	4・3・2・1	②	24%	53%	24%	0%
	③ 自分から子どもに明るいあいさつをしたり、声を掛けたりして、どの子どもに対しても、公平に分け隔てなく接している。	4・3・2・1	③	53%	47%	0%	0%
	④ 子ども一人ひとりのよいところや得意なところを見つけて、肯定的な声掛けをしている。	4・3・2・1	④	35%	59%	6%	0%
ルールの確立	① 子どもは、話を聞く時、話し手を見て静かに聞いている。	4・3・2・1	①	12%	71%	6%	6%
	② 子どもは、明るい挨拶や返事、時と場に応じた言葉遣いをしている。	4・3・2・1	②	6%	35%	59%	0%
	③ 子どもは、静かに移動したり、集会などに参加したりしている。	4・3・2・1	③	6%	65%	29%	0%
	④ 子どもは、みんなで使うものを大切にしている。	4・3・2・1	④	12%	76%	12%	0%
子どもどうしの関係づくり	① 子どもは、話を聞く時、話し手を見て静かに聞いている。	4・3・2・1	①	12%	76%	6%	0%
	② 子どもは、明るい挨拶や返事、時と場に応じた言葉遣いをしている。	4・3・2・1	②	29%	47%	24%	0%
	③ 子どもは、静かに移動したり、集会などに参加したりしている。	4・3・2・1	③	35%	59%	6%	0%
	④ 子どもは、みんなで使うものを大切にしている。	4・3・2・1	④	24%	65%	12%	0%
個と集団の育成	① 友達と明るい挨拶を交わすことを促し、親和的な雰囲気をつくっている。	4・3・2・1	①	12%	41%	47%	0%
	② 友達がつながらる場面(会話、協働)を意図的に設定し、良好な関係づくりを促している。	4・3・2・1	②	6%	53%	41%	0%
	③ 困っている友達を助けたり、支えたりして協力する言動を取り上げ、賞賛している。	4・3・2・1	③	12%	53%	35%	0%
	④ 友達の考えや努力、よさを認めて、あたたかく接する言動を取り上げ、賞賛している。	4・3・2・1	④	24%	71%	6%	0%
教室環境	① 一日の予定や活動の流れを掲示して見通しをもたせている。	4・3・2・1	①	53%	47%	0%	0%
	② 教材・教具、学習用具などが整理整頓され、ごみや落書き、掲示物などの剥がれもなく、きれいな環境(黒板・廊下・掲示板・ロッカー)になっている。	4・3・2・1	②	6%	88%	6%	0%
	① 学校や家庭での子どもの様子について、保護者と情報を共有している。	4・3・2・1	①	12%	65%	24%	0%
	② 子どものよいところや得意なところを保護者に知らせている。	4・3・2・1	②	6%	41%	53%	0%
保護者連携	① 子どもが自分の得意なことや良いところに気付くような取組をしている。	4・3・2・1	①	20%	80%	0%	0%
	② 子どもが学校生活に関する目標を立てて取り組み、振り返りをする機会をつくっている。	4・3・2・1	②	40%	53%	7%	0%
	③ 子ども一人ひとりが自分の役割をもち、クラスのために取り組んだことを、クラス全体から肯定的に認められる場面を設定している。	4・3・2・1	③	53%	40%	7%	0%
	④ 学級の中に温かな笑いがあり、集団の中に安心感と所属感をもたせるようにしている。	4・3・2・1	④	20%	67%	13%	0%
R2.6	担任と子ども		①	35%	53%	12%	0%
	ルール		①	12%	71%	6%	6%
	子ども同士		①	12%	76%	6%	0%
	個と集団		①	12%	41%	47%	0%
R2.1.2	担任と子ども		①	20%	80%	0%	0%
	ルール		①	13%	80%	7%	0%
	子ども同士		①	27%	67%	7%	0%
	個と集団		①	13%	67%	20%	0%
保護者	①		①	20%	67%	13%	0%
	②		②	13%	60%	27%	0%

図6 学級経営セルフチェック表と集計結果

(2) 組織的協働的な学年経営の立案と実践

① 「学年主任者会」定着までの過程

Step1 主幹からの伝達中心 ※ 令和元年度

Step2 管理職から議題提示

主に新型コロナウイルス感染拡大防止対策と学校の臨時休業に伴う対応の原案(主に学校長より提

案)について意見を出し合った。司会は教頭が務め、話し合いを焦点化させながら学年主任の意見を集約し、円滑に話し合いを進めた。主な議題は次の通りである。

【議題例（5月18日・19日）】

- |   |  |
|---|--|
| <p>(1) 教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校行事の見直し</li> <li>・ 未履修内容の時数確認</li> <li>・ 年間指導計画の見直し</li> <li>・ 時程の変更</li> </ul> | <p>(2) 感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登校時の検温チェック</li> <li>・ 座席配置, 手洗い場の整列</li> <li>・ 消毒作業 (給食, 放課後)</li> </ul> |
|---|--|

Step3 教務主任から議題提示

学校再開後、臨時学年主任者会の回数は減ったが、特に若手の学年主任者から「他学年と情報を共有したり、他学年の取組を参考にしたりするために定期的に学年主任者会を実施したい」という声が挙がった。そこで、管理職の承諾の基、7月からは教務主任が中心となって学年主任者会が月に1回開催されることとなった。議題は教務主任が提示し、それらについて学年主任が考えを述べたり、学年の情報を提供したりした。

Step4 学年主任から議題提案も追加

「学年主任者会」で話し合う議題の中にある「その他」の際に、学年主任から全体で確認したいこと（例：清掃指導や生徒指導の共通理解）や、新たな提案（例：道徳の指導計画について、重点価値項目の複数時間の実践より、すべての道徳的価値項目を授業実践することを優先する）が主体的に出てくるようになってきた。なお、主な議題は次の通りであった。

<p>&lt;7月22日(水)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習進度</li> <li>・ 夏休みの宿題</li> <li>・ 3観点の学習評価</li> <li>・ 各学年から (生徒指導, 学年行事等)</li> </ul>	<p>&lt;8月28日(金)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習進度</li> <li>・ 生活面</li> <li>・ 通信票の文言</li> <li>・ 運動会</li> <li>・ 自習指導 (課題等)</li> </ul>	<p>&lt;10月6日(火)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縦割り活動</li> <li>・ 学習進度</li> <li>・ 各学年から</li> <li>・ その他 (フリー参観, 教育相談, 運動会)</li> </ul>	<p>&lt;11月26日(木)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度教育課程</li> <li>・ 諸表簿提出</li> <li>・ 放課後学習支援</li> <li>・ 学習進度</li> <li>・ 各学年から</li> </ul>	<p>&lt;12月10日(木)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度行事</li> <li>・ 一日入学</li> <li>・ 学習進度</li> <li>・ 生徒指導 (遊び方, 下校指導)</li> </ul>
---	--	--	---	--

② 「学年経営ハンドブック」(図7)を基にした学年経営の実践

1年次での研究の中で、学年主任者向けに学年主任の職務や仕事内容、学年会議の進め方、学年研修のアイデア等をまとめた「学年経営ハンドブック」を作成した。これを受け、2年次は学校現場で実践し、その有効性を検証した。

<学年経営戦略マップの作成>

学年目標や目指す児童像を学年担任で共有すべく、6月と11月に「戦略マップ」を作成した。手順は次のとおりである。

- 1) 学年目標・目指す児童像の決定
- 2) 実態把握 (主に児童の強みと弱みを整理する)
- 3) 目標達成の手立てを検討する (中長期的視点)

6月に戦略マップを作成しながら学年経営方針を共有した後、学年経営案や学級経営案を作成した。また、11月に手立ての成果と課題を検討しながら「戦略マップ」を改めて作成し、修正を図った。2つの戦略マップを比較する

と、11月の方がより児童の実態に即した具体的な手立てが話し合われ、目標達成までの見通しが明らかになってきた。また、6月の時点では学年メンバーの意識が担当する学級に強く向いていたが、学年経営方針の浸透とともに、学年全体に視野が広がってきたことが見られた。

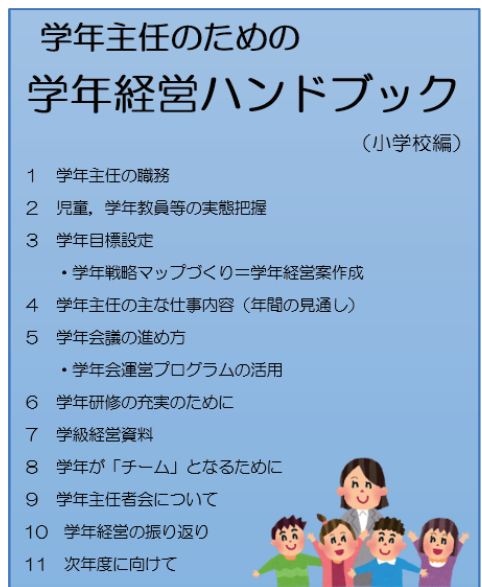


図7 学年経営ハンドブック

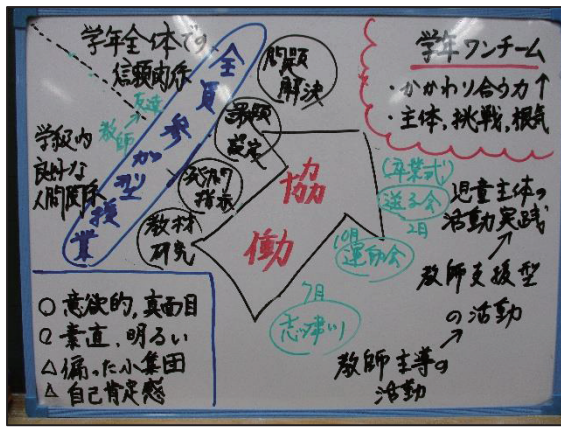


図8 「戦略マップ」(6月)

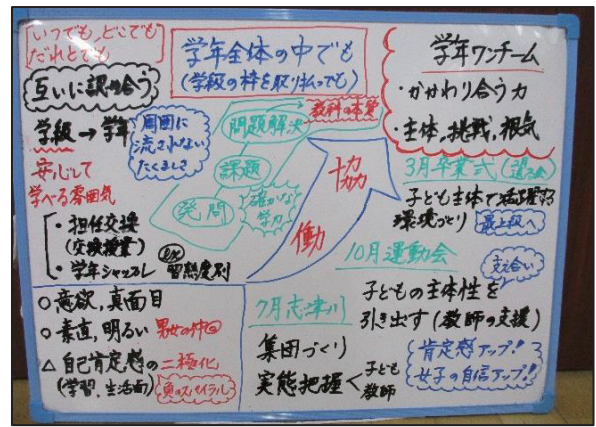


図9 「戦略マップ」(12月)

＜学年会議の改善＞

学校全体では、これまで学年裁量で不定期に開催されがちだった学年会議を原則週1回開催するように改善した。また担当学年では、学年会議の内容について学年メンバーも見通しをもったり、資料作成の負担を軽減したりするために「学年会議運営プログラム」を導入した。この中で「学年会議年間シート」(図10)に学年会議の議題を入力すると、「学年会議進行シート」(図11)に反映される仕組みになっている。内容によって補助資料を作成する場合はあるが、統一された様式で資料を作成できるとともに、議題が確実に記録され、次年度以降の学年経営において見通しをもちやすくなり、資料作成の負担もさらに軽減されると考える。さらに、議題に学年研修を位置付け、学習指導や生徒指導、保護者対応や危機管理等の研修を意図的・計画的に行い、学年メンバーの職能成長をねらった実践も行った。(学年研修の内容は、「学年経営ハンドブック」(図12)を参考)

月		進行シート	結果日	5年後期(1月~3月) 学年会議実施プラン								表紙へ戻る
				週別議題・内容一覧								
				1	2	3	4	5	6	7	8	
1月	1	1月6日(水)	議題 体本明け対応について 結果 各学年 目標達成確認	3月までの見直し 各学年 目標達成確認	学習進捗 各学年 目標達成確認	学年行事 各学年 目標達成確認	取内書作成について 各学年 目標達成確認	協議及び記録会に向けて 各学年 目標達成確認	学級・児童の研修交換 各学年 目標達成確認	その他		
	2	1月14日(木)	議題 取内書作成について 結果 各学年 目標達成確認	協議及び記録会に向けて 各学年 目標達成確認	衣よな集会に向けて 各学年 目標達成確認	学習進捗 各学年 目標達成確認	卒業式に向けて 各学年 目標達成確認	学級・児童の研修交換 各学年 目標達成確認	その他			
	3	1月22日(金)	議題 協議及び記録会 結果 各学年 目標達成確認	衣よな集会に向けて 各学年 目標達成確認	学年行事について 各学年 目標達成確認	学習進捗 各学年 目標達成確認	取内書 各学年 目標達成確認	学級・児童の研修交換 各学年 目標達成確認	その他			
	4	1月29日(金)	議題 6年生を送る会に向けて 結果 各学年 目標達成確認	学習進捗 各学年 目標達成確認	2月号 各学年 目標達成確認	学習内容、評価等確認 各学年 目標達成確認	まどめについて 各学年 目標達成確認	学級・児童の研修交換 各学年 目標達成確認	その他			
	5	月日( )	議題 出物、準備物 結果 各学年 目標達成確認	学習進捗 各学年 目標達成確認	学習内容、評価等確認 各学年 目標達成確認			学級・児童の研修交換 各学年 目標達成確認	その他			
2月	1	2月4日(木)	議題 学習進捗に向けて 結果 各学年 目標達成確認	6年生を送る会に向けて 各学年 目標達成確認	学習進捗 各学年 目標達成確認	卒業式に向けて 各学年 目標達成確認	通信票作成に向けて 各学年 目標達成確認	写真展について 各学年 目標達成確認	学級・児童の研修交換 各学年 目標達成確認	その他		
	2	2月12日(金)	議題 授業内容・準備物など 結果 各学年 目標達成確認	出物、準備物 各学年 目標達成確認	学習内容、評価等確認 各学年 目標達成確認	流し・準備確認 各学年 目標達成確認	6年生を送る会に向けて 各学年 目標達成確認	学級・児童の研修交換 各学年 目標達成確認	その他			
	3	2月19日(金)	議題 学習進捗の確認 結果 各学年 目標達成確認	学習進捗の確認 各学年 目標達成確認	授業内容・資料確認など 各学年 目標達成確認	通信票作成に向けて 各学年 目標達成確認	出物、準備物 各学年 目標達成確認	学級・児童の研修交換 各学年 目標達成確認	その他			
	4	2月26日(金)	議題 通信票作成に向けて 結果 各学年 目標達成確認	学年行事 各学年 目標達成確認	認定会資料 各学年 目標達成確認	学級編成 各学年 目標達成確認	学習進捗 各学年 目標達成確認	学級・児童の研修交換 各学年 目標達成確認	その他			
	5	月日( )	議題 進行状況確認 結果 各学年 目標達成確認	3月号 各学年 目標達成確認	資料作成 各学年 目標達成確認		学習内容、評価等確認 各学年 目標達成確認	学級・児童の研修交換 各学年 目標達成確認	その他			
3月	1	3月5日(金)	議題 卒業式に向けて 結果 各学年 目標達成確認	学級編成 各学年 目標達成確認	学習進捗 各学年 目標達成確認			学級・児童の研修交換 各学年 目標達成確認	その他			
	2	3月11日(木)	議題 卒業式準備 結果 各学年 目標達成確認	卒業式準備 各学年 目標達成確認	未履修・教材使用状況 各学年 目標達成確認			学級・児童の研修交換 各学年 目標達成確認	その他			
	3	3月18日(木)	議題 持ち帰りのもの 結果 各学年 目標達成確認	卒業式 各学年 目標達成確認	卒業式について 各学年 目標達成確認	卒業式に向けて 各学年 目標達成確認	学習進捗 各学年 目標達成確認	学級・児童の研修交換 各学年 目標達成確認	その他			
	4	3月24日(水)	議題 学級編成について 結果 各学年 目標達成確認	卒業式準備 各学年 目標達成確認	卒業式準備 各学年 目標達成確認	卒業式に向けて 各学年 目標達成確認	卒業式に向けて 各学年 目標達成確認	学級・児童の研修交換 各学年 目標達成確認	その他			

図10 学年会議年間シート

図11 学年会議進行シート

### 6 学年研修の充実のために

(毎回でなくとも) 学年会議の中に「学年研修」(体験研修、事例検討、理論研究等)を取り入れて、学年内でスキルアップを図っていきましょう!!

#### 研修メニュー

##### ①特別活動

- 学級開きについて
- 学級目標づくり
- 学級組織づくり(当番、係活動)
- 席替え
- 給食指導
- 清掃指導
- 朝の会、帰りの会
- 学校行事

##### ②授業(学習指導)

- 学習規律
- 学習過程の工夫
- 発問の吟味
- 話し合い活動のコーディネート
- まどめ、振り返りのさせ方
- ノート指導
- 学習評価
- 補助教材の使用法
- ICT活用
- 通信簿・指導要録作成

学年を超えて情報交換をしてみましょう!

模擬授業を取り入れ、子どもの目線から授業を見つめてみよう!

##### ③教室環境

- 言語環境
- 整頓の仕方
- 学習道具の保管
- 掲示物の工夫

##### ④生徒指導

- 児童との関係づくり(授業時間、休み時間、放課後など)
- 発達障害等の理解
- ルールの徹底
- 児童同士の関係をつなぐ
- 構成的グループ・エンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング等
- トラブル対応(いじめ、不登校・準不登校、けんか、万引きなど)

##### ⑤その他

- 保護者対応(電話、連絡帳)
- 地域対応
- 教育相談
- 懇談会
- 家庭訪問
- 学級通信

特別支援や保健室の先生、SC などの意見交換も大切ですよ!

### 7 学級経営資料

全国各地の自治体教育委員会または教育センターから、さまざまな資料が紹介されています。(ダウンロード可)  
学年研修(初任研)への活用も可能です。

- 「学級担任のための生徒指導ハンドブック」(仙台市)
- 「学級担任のための生徒指導ハンドブック」(仙台市)
- 「授業のUDの視点を取り入れた授業づくりについて」(青森県)

図12 「学年経営ハンドブック」より一部抜粋(学年研修充実のために、学級経営資料)

### <学年協働実践①>

#### ○宿泊学習

学年担任の協働性を高めるとともに、児童理解を深めるために宿泊学習を活用した。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日時や活動場所等の変更が余儀なくされた。そのような中で学年メンバーはもちろん、関係する職員と共通理解を図ったり、保護者への不安を軽減したりして準備をすすめるために「宿泊学習ロードマップ」(図13)を作成した。これに沿って準備を進めることで、学年メンバーには各自の得意分野や今後の成長を見通した役割分担を行い、児童とともに教員も成長を感じられるような取組を実施した。

#### 学年会資料 (R2 志津川合宿に向けてのロードマップ)

R2.6.8 第5学年(高橋)				
<6月第2週>	<6月第3・4週>	<6月第5週>	<7月第2・3・4週>	<7月第5週>
◇実施計画の検討 ※詳細は別紙参照 ◇バス会社との確認 ※日程、台数 ◇事前説明会(17日)申込 ◆保護者説明会の検討 + 説明会実施の周知 ◆PTA会長への連絡 ◆学年委員長への連絡	◇実施計画の検討 ※説明会を受けて ◇事前提出書類作成 ※26日提出予定 ◆保護者説明会準備 ・紙資料 ・パワポ ・役割分担 ※実施計画書提出(市教委)	◆保護者説明会 ※不参加の保護者への支援 ◇合宿準備① (総合的な学習の時間) ・活動計画 ・班編成、バス座席表 ・準備物など	◆健康調査票配付・回収 ◆集金(メッチ17日) ◇合宿準備② (総合的な学習の時間) ・事前指導 ⇒活動、所内の約束 ・役割分担(生活班) ・しおり作成 ◇引率者打合せ(22日)	◇合宿準備③ (総合的な学習の時間) ・最終確認 ○学校準備 ・バス車内 ・活動備品 ・保健セット ※志津川合宿!

#### 【保護者説明会(案)】

- 1 日時 令和2年6月30日(火)17時~
- 2 場所 ざんなんホール
- 3 内容 (1) 学校長挨拶  
(2) 合宿変更の経緯について  
(3) 活動計画(雨天時含む)  
⇒1泊2日、海の活動+震災講話  
(4) 所内での生活について  
・食事 ・入浴 ・宿泊室 等  
(5) 緊急時、アレルギー、感染症対応 等  
(6) 準備物、経費  
(7) 質疑

#### 【費用関係】

- ①「使用料」(宿泊室、研修室等)の納入 ⇒ 入前日までに振込
- ②「寝具費用」「研修費」の納入 ⇒ 当日支払い
- ③「食費」の納入 ⇒ 後日 振込
- ④バス代納入 ⇒ 後日 支払い

#### 【現段階での検討・確認事項】

- 活動計画の工夫(食堂や浴室、洗面所利用の時間確保と3密対策)
- 不参加児童の扱い・・・「欠席」扱いしない方向でよいか。
- 1日目の昼食について・・・おにぎり弁当の注文?(食中毒防止)
- 引率教員・役割分担
- 必要経費・・・一人当たり
- 学校準備物(緊急車両も含め)

図13 宿泊学習ロードマップ



<学年協働実践②>

○授業づくり&生活指導

①では行事を通しての実践だったが、学年メンバーの学年全体への視野の広がりを受けて、協働の授業づくりによる交換授業（道徳科）と給食・清掃指導を行った。道徳科の授業づくりを通して教材研究を深め、発問の吟味や学習活動の工夫に挑戦したり、給食・清掃指導を通して他学級の学級経営の一端を学んだり、児童理解をさらに深めたりすることにつながった。

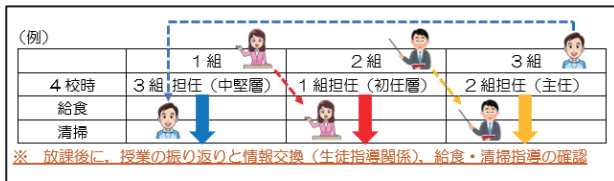


図 14 学年担任体制づくり

<学年メンバーの特性を生かす実践>

学年経営上、学年メンバーが興味関心をもっていたり得意だったりする分野や、職能成長を促すための分野を適材適所で役割分担することは非常に重要であると考えます。そこで、今年度は初任層のメンバーに国語科の説明文指導（指導主事学校訪問で授業提供）、中堅層のメンバーには体育科の表現指導（運動会で発表）について提案と中心的指導を任せました。また、自分は校内研究と関連させて算数科の割合指導（全校授業研究会で授業提供）を担当した。これらの取組により、学年で深めた教材研究を共有できたり、各メンバーに職能成長を感じさせたりすることができた。

③ 学級経営に関わる研修会（若手育成研修）

本研究では、学年経営の充実を通して学級経営力の向上にもつなげたいと考えている。しかし、学年内だけでなく、学校全体で学級経営に関する様々な情報交換を計画し、「学級経営ミニ研修会」を開催した。テーマは、初任者層教員から寄せられた質問を基に作成し、校内教員が若手からベテラン層までの有志10名が集まって各自の実践を互いに紹介し合い、情報交換を行った。その後、研修会で学んだことを担当する学級で実践したり、若手教員が先輩教員に気軽に質問したりする姿が増えるようになった。

(3) 「hyperQ-U」調査（6月・12月実施）から

多くの学年、項目で改善が見られるとともに、学校全体でも「学級生活満足群」「学級生活不満足群」「侵害行為認知群」「非承認群」のすべての項目で改善が見られた。併せて、すべての項目で全国平均を上

学年協働による授業づくり&児童理解の取組～交換授業・給食清掃指導～

R2. 12 第5学年

- ねらい
  - 学年協働による道徳科の授業づくりを通して教材研究を深めるとともに、児童の道徳的心情を高める。また、教員の教材づくりなどの負担軽減を図る。
  - 担任交換による授業・給食清掃指導を通して、学年児童の理解を深めるとともに、給食清掃指導における学年の共通理解と指導改善につなげる。
- 日時 令和2年 12月24日（木）4校時～給食～清掃
- 担当 5年1組指導（3組担任：○○）  
5年2組指導（1組担任：△△）  
5年3組指導（2組担任：◇◇）  
※ 先月の朝の活動（学級）にて、担任交代でのレクリエーション実施済み

☆当日の大まかな流れ

時程	5年1組：○○	5年2組：△△	5年3組：◇◇
11:30～12:15	道徳授業実践	道徳授業実践	道徳授業実践
12:15～12:55	給食指導	給食指導	給食指導
13:00～13:20	清掃指導	清掃指導	清掃指導

- 授業について
  - ◇ 教科：道徳科（道徳的価値：友情・信頼、教材名：「心のレシーブ」）
  - ◇ ねらい  
主人公・陽子の良夫に対する気持ちの変化の理由を考え、互いに理解し合うために大切なことに気づき、これまでの自分を振り返って友達と協力しようとする心情を育てる。
  - ◇ 主な学習の流れと発問構成 ※ 別紙資料参照

図 15 交換授業・給食指導

## 学級経営ミニ座談会

先生方が日々楽しみながら？悩みながら？取り組んでいらっしゃる「学級経営」について、ざっくばらんにお話してみませんか？

若手の先生方からの質問などをもとに、日々の悩みや各先生方の実践を、みなさんでシェアできればと考えています。「最初だけ」、「最後だけ」、「途中の5分」でも構いません。興味とお時間がありましたら、ぜひご参加ください。お待ちしております。

**日時** 7月17日(金) 17:00～(30分程度)  
**場所** プレイルーム

【若手の先生方からいただいている質問等】

- 席替えのタイミング、仕方 ○給食のおかわりをさせるタイミング
- 算数の授業における学力差への対応（下位児童への指導）
- ※ 個別指導をされているか
- 学級目標の作り方 ○学級への所属感を高める取組
- 子どもと関わる時間を生み出すためのタイムマネジメント  
(宿題やテストの採点、通信票所見、学習プリント作り、教材研究、事務作業等)
- 授業づくりの視点 ○主体的な児童を育成するための取組
- 宿題を忘れた児童への指導 ○学級便り作成の工夫
- 宿題を全員そろった時のごほうびについて
- 自分なりに工夫して実践していること

図 16 学級経営ミニ座談会資料

回った。特に「学級生活満足群」が約10%程度上昇したことは、学年経営の充実が学級経営力向上にもつながっていることを示していると考えられる。これに伴い、「学級生活不満足群」が約5%減少し、「非承認群」も5%減少していることから、学年学級の中で自分を認められ、所属感を感じている児童が増えたものとみている。ただし「非承認群」が1割程度存在することから、個別の支援方法や、一人ひとりのよさが集団の中で認められる場の設定などを改善していく必要がある。また「侵害行為認知群」は改善しているものの、改善した割合が小さいことから、該当する児童一人一人に向けた支援方法について、生徒指導部を中心とした学校全体の共通理解を基に学年でも検討し、手立てを講じていく必要がある。

### Ⅲ 研究成果の学校教育における位置付け・意義、応用性、期待

変化の激しい社会を生き抜く力、新学習指導要領で示された資質・能力の育成を模索する中で、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う行動様式の変容も重なり、学校に求められる対応も加速度的に増している。また、ベテラン層の大量退職に伴う教員の年齢構成の急激な変化と慢性的なマンパワー不足により、学校現場の疲弊も大きくなっている。そのような中で、ミドル層つまり学年主任者層が学校経営の中核を担うためにも組織マネジメントの視点を持ち、組織的協働的な教育活動を牽引していかななくてはならない。

本研究を通して、特に小学校において「学年主任者会」が学校経営の中に位置付け機能することは、学年主任者層の視野が学年だけでなく学校全体へと広がるとともに、学校経営への参画意識を高めることが明らかになった。加えて、学年主任研修（特に若手学年主任を育成する場）としてミドル層の成長を促すことも分かった。次に学年主任者間の意思疎通が基になり、学年における目標（目指す児童像）つまりビジョンの共有や学年メンバーの特性を生かした役割分担、学年会議の工夫などの実践が学年経営を充実させることも本稿の成果の一端として捉えることができる。そして、担任の協働性を高めるだけでなく、教員一人一人の職能成長を実感させることにもつながった。また、学年経営の充実が学級経営力の向上にも波及効果を生み、児童の学校生活満足度を向上させる結果にもつながった。

今後も「学年主任者会」と「学年経営の充実」を柱とする実践を積み重ねていく中で、連綿と受け継がれたきた学校文化・教育技術のよさを伝承しつつ、新しい時代に応じた創造的な学校づくりに取り組んでいきたい。

### Ⅳ 引用・参考文献

- ・赤坂真二（2018）：『資質・能力を育てる問題解決型学級経営』明治図書
- ・浅野良一（2019）：『学校組織マネジメントの実践に向けて』学校組織マネジメント指導者養成研修資料
- ・藤森美奈（2012）：「小学校学年主任が働き掛ける学年経営活性化のための協働体制づくりー学年経営の一助となる「主任ノート」の提案ー」『平成24年度静岡県総合教育センター長期研修員研究報告書』
- ・飯村友和（2020）：『学年主任の仕事術』明治図書
- ・奥田真司（2012）：「小学校における学年運営の実態」岐阜大学教育学部『教師教育研究』第8号，pp.197-206
- ・白松賢（2017）：『学級経営の教科書』東洋館出版
- ・高橋勉（2013）：「学年会の効率化と担任の連携を深める学年経営の工夫」『平成25年度群馬県教育センター長期研修員研究報告書』
- ・矢島敏明（2012）：「同僚性や協働性を高める学年経営」『平成24年度群馬県教育センター長期研修員研究報告書』
- ・逗子市教育研究相談センター（2015）：「学級経営自己チェック表」，授業・学級経営についての自己チェックリスト (<https://www.city.zushi.kanagawa.jp/global-image/units/78848/1-20140905081055.pdf>，最終確認期日 2021.2.11)